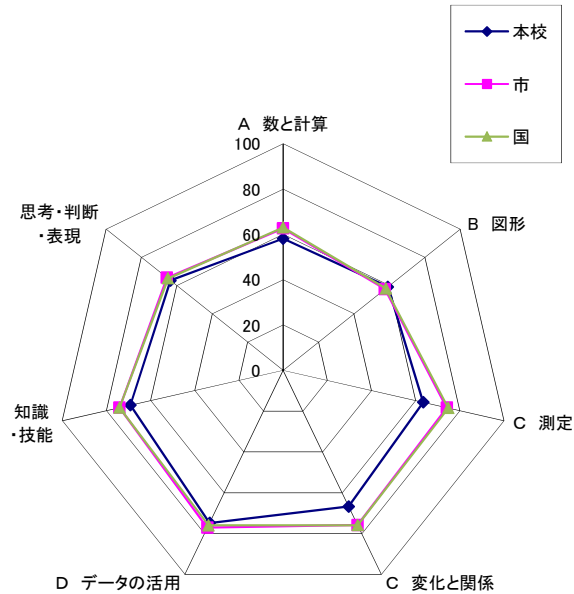


宇都宮市立東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	58.1	62.6	63.1
	B 図形	59.1	57.5	57.9
	C 測定	63.4	74.1	74.8
	C 変化と関係	66.7	75.8	75.9
	D データの活用	74.8	77.1	76.0
観点	知識・技能	69.2	74.1	74.1
	思考・判断・表現	63.6	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、58.1%と市の平均を4.5ポイント、国の平均を5.0ポイント下回っている。 ○示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する設問では、正答率が87.1%で、県、全国ともに4.1ポイント上回っている。 ●二つの道のりの差の求め方と答えを書く設問では、正答率が48.4%で県を12.3ポイント、全国を14.1ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・基本的な計算は、比較的できているが、問題で問われていることが複雑であり、比較する必要がある場合、また、求め方やわけを記述する問題での誤答が多く見られるので、問われていることを筋道立てて考え、説明する指導を繰り返していきたい。
B 図形	平均正答率は、59.1%と市の平均を1.6ポイント、国の平均を1.2ポイント上回っている。 ○二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積求め方と答えを書く設問では、正答率が58.1%で県を12.0ポイント、全国を12.1ポイント上回っている。 ●直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ設問では、正答率が58.1%で県を12.4ポイント、全国を14.4ポイント下回っている。	・面積を求める方法についての知識はあるので、図形が動いたり、組み合わせざったりしても面積は変わらないことを、実際に形を動かして考えさせたい。
C 測定	平均正答率は、63.4%と市の平均を10.7ポイント、国の平均を11.4ポイント下回っている。 ●二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する設問では、正答率が48.4%で県を12.3ポイント、全国を14.1ポイント下回っている。	・二つの道のりを比較する場合に、必要な数値を正しく選ぶことができるよう、順序立てて考える習慣を身に付けられるようにしていきたい。 ・面積を比較するときには、分かっている長さや条件を図形に書き込んで考える習慣を付けさせたい。
C 変化と関係	平均正答率は、国、市の平均を下回った。 ●「二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ」問題では、国の平均を17.1ポイント下回る38.7%の正答率であった。 ●「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」問題や「速さと道のりを基に、時間を求める式に表す」問題では、どちらも国の平均を5～6ポイント下回っていた。この問題での無回答率が高い。	・文章問題を読み、それぞれの変化の関係をはっきりさせて説くように指導する。 ・いろいろな場面で、自分の考えを式だけでなく、図や言葉を使って書かせる授業をする。また、文章問題では答えを出すのに必要な情報に下線を引くなど、情報を整理できるように指導していく。
D データの活用	平均正答率は、74.8%と県・全国の平均とほぼ同程度であった。 ○帯グラフで表された複数のデータを比較し示された項目とその割合を記述する設問では、正答率が54.8%で県を3ポイント、全国を2.8ポイント上回っていた。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取る設問では、正答率が83.9%で県を5.9ポイント、全国を6.8ポイント下回り、課題が残った。	・棒グラフから、項目間の関係を読み取る設問では、棒グラフのデータの項目間の関係が読み取れるように、基礎的問題から発展問題まで多様な問題を提示し取り組ませるような指導を継続していく。 ・表、棒グラフ、帯グラフなどのデータを読み取る練習問題を提示し、指導を継続していく。